

# 会 議 録

1 名 称	平成25年度第6回北九州市子ども・子育て会議
2 議 題	「元気発進！子どもプラン」の中間総括について 次期計画の検討の進め方について
3 開催日時	平成25年10月17日（水）14：00～16：00
4 開催場所	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ5階大セミナールーム （小倉北区大手町11-4）
5 出席した者の 氏名	出席委員（13名）（◎…会長、○…副会長）（敬称略・50音順） 内木場 豊 香月 きょう子 上別府 清隆 北野 久美 陣内 朋子 添田 重幸 ◎田中 信利 田中 眞弓 津留 小牧 中村 雄美子 錦戸 千晶 浜村 千鶴子 村上 順滋 出席専門委員（7名） 木戸 義彦 黒木 八恵子 中田 俊澄 平田 久美子 柳田 克喜 山本 文雄 渡邊 典子
6 議事の概要	次ページのとおり
7 発言内容	次ページのとおり
8 その他	傍聴者2名
9 問い合わせ先	子ども家庭局 子ども家庭政策課 子ども・子育て新制度準備担当 （担当）村上、立石 電話番号 093-582-2550

# 会 議 録

## 6 議事の概要

- 「元気発進！子どもプラン（平成22年度～26年度）」の中間総括について 資料1に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- 「元気発進！子どもプラン」の次期計画策定のイメージ他について 資料2、3-1、3-2、3-3に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- 「元気発進！子どもプラン」の次期計画の検討スケジュール（案）について 資料4に基づき事務局より説明した。
- 北九州市子ども・子育て会議における意見書および質問票の提出について 資料5に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。

## 7 発言内容

発言者	内 容
	<p>【開会】14:00 ○ 会議成立の報告</p>
委員	<p>【議事】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>元気発進！子どもプラン（平成22年度～26年度）」の中間総括について 資料1に基づき事務局より説明</p> </div> <p>7ページの「母子保健」で、成果指標として10代の妊娠中絶率は低下しているが、全国一高いということを確認しているのか。福岡県が全国で一番高く、その中でも北九州が一番高い。</p> <p>9ページの「母子医療」で、A評価をいただき北九州市医師会としてもありがたいが、周産期医療、小児救急医療については、課題のとおり、全国的な医師不足が指摘されている。開業医もそうした影響を受けて、どんどん減っている。休日急患センター等の医師数もかなりタイトなスケジュールになっていて、どこまで維持できるか分からない。将来的には、そういう状況も考えておいていただきたい。また、周産期医療や小児救急医療をされている中心的な先生方も、かなり定年間近とかになっているので、継続できるかどうかということもお含みおきいただきたい。</p> <p>16ページの「家庭の教育力の向上」の取組みで、家庭教育学級の拡充となっているが、こういったことをしているのか。私の知る限りにおいては、家庭教育学級というのは大概出てくる人が決まっています、本当に受けたい人にはなかなか届かないというのが、いつも課題になっていた。</p> <p>22ページの「児童虐待の対応」の児童虐待の防止において、妊婦健診を受けてないとかいうところが、児童虐待の特に死亡事例においてリスクファクターになる。その中でもやはり10代の妊娠・出産が当然リスクファクターになっているので、先ほども言ったように、10代の妊娠・出産のところを押し</p>

# 会 議 録

事務局	<p>えておいていただきたい。付随して、10代の性感染症は大丈夫なのかなというような部分もある。</p> <p>家庭教育学級については、少し教えていただきたい。</p> <p>家庭教育学級は、古い歴史を持っており、小学校では昭和39年から取り組んでいただいている。中学校では昭和46年から、昨今では、幼稚園、保育所等でも力強く取り組んでいただいているが、半分マンネリ化しているところもあろうかと思う。</p> <p>昨今PTAが主体となって動いているが、関心のある方々と、無関心の方々が共存しているという指摘も伺っている。そこで、今後、家庭教育学級にどうすれば無関心層に参画していただけるのか。現在、市民センターを中核として取り組んでいただいているが、今後、中学校への委託方式であるとか、やり方について、現在検討しているところである。</p> <p>全体的には、家庭教育学級は、小・中学校のほか、幼稚園、保育所のいわゆる小学校に入学する前の段階から取り組んでいただいております、それらを踏まえ、今後あり方を検討していきたい。</p>
委員	<p>できるだけ参加しやすい日時であるとか、時間とかの配慮が必要ではないかと思う。子育て中にそういう案内が来ても、とても行けるような時間ではなかったもので、ワーク・ライフ・バランスも配慮して、開催していただきたいと思う。</p>
専門委員	<p>8月に行った24年度の評価や結果とかは、この中に反映されているのか。</p>
事務局	<p>反映されている。</p>
専門委員	<p>その中で、自分が意見を言った障害児の部門は全然反映されていない。全然文言も出てきていない。例えば、障害児の補助金等に関して、就学前の5歳児の人数の比率でいけば、全北九州市の中の5歳児の6割近くは幼稚園に通っている。それにもかかわらず、障害児に対する、特に障害児なんかは早期発見、早期対応というものが一番大事であるが、発見ということに対してはいろいろと書いてあるが、対応ということに対しては、全然、この間言ったとおり、学童保育は160万円、幼稚園の方は1人当たり40万円と、そういう部分はおかしい、問題ということを指摘したが、そういうことに対して問題がなかったような形で書いている。全然触れられてないと。先ほど、委員が言われていたこと、関心のある保護者は来てくれるが、関心のない保護者は来てくれないと</p>

## 会 議 録

事務局	<p>というようなことが分かっているにもかかわらず、ここの課題の中にも書いてないことは、何かちょっとおかしい気がする。</p> <p>私立幼稚園の障害児の部分の助成の関係であるが、私立幼稚園は、県の措置の中で動いており、障害児1人当たり約39万円というのが基本になっている。市としては、県の中でやっている分以外で、県の対象にならない部分について市が補助しているが、県の対象になっている部分についての上乗せというのは、今のところ考えていない。</p>
専門委員	<p>北九州市の考え方はそうかもしれないが、他の政令市の考え方は全然違う。それに対して加算というのもあるし、北九州市の子どもということと考えたら、例えばそういうような問題、金額的な問題があるということを書いた上で、その部分は県の補助金で賄っているというような認識にしてもらわないと、ここに全然載ってなかったら問題がないように感じる。</p> <p>課題と書いてある割に、課題を書いていないと。都合の悪いことは書いていないというふうを感じる。先ほどの参加しない保護者に対して参加を、一番大事だと思う。その部分が一番大事なことだが、今、出てきてくれる保護者対象に、何か自分たちが満足するような形でやっている。本当の家庭教育の学習を一番しないといけないのは、出てきてくれない保護者に対してどういうふうに分かってもらうかとかいうことが一番大事だと思うのだが、それには触れられていない。都合のいいところだけ載せて、都合の悪いところは触れないというふうな感じがする。</p> <p>この間のニーズ調査の件などでも、都合のいいところは載せて、補助金が出ないということに対しては質問すらしない。ニーズを聞くという、ニーズ調査だからお金が出る、出ないは関係ないと思うのだが、その辺の認識が少し違うような気がする。これは、自分のほうがおかしいのか。</p>
事務局	<p>こちらに書いているのは、総括してまとめたものである。一件一件の課題というのは、資料上、作ることは難しい部分があり、ここには書いていない。ただ、今後施策の検討を進める中で、そういう部分についても、個別の施策の中で検討を進めていく必要はあると思う。</p>
専門委員	<p>どこに載るのか。ここに載らないというのは、どこに載るのか。</p>
事務局	<p>これはあくまでも、全体を総括して書いたものなので、ご理解いただきたい。</p>

# 会 議 録

委員	記録は残るのか。
事務局	発言の内容については、議事録等で残る。
委員	検討するというような、行政側はどう受けとめたかとかいう記録はどうか。委員が発言したのだから。
事務局	当然、それを踏まえて検討するという形にはなる。
委員	答えになっていない。
会長	恐らく、今の議論というのは、結局は今後どうするかという、その次期計画。
委員	<p>いや、というか、そんな言い分はちょっと。いや、委員とは何なのかという、今、冒涇したように私は聞こえた。何のために発言したのか、全く記録も残らないとか、今そういうふうに聞こえたが、私の耳がおかしかったのか。</p> <p>もう一つ、申し上げれば、先ほどの県のほうがしている事業だから、北九州市はできないという発言があったが、例えばこの間の予防接種の問題、これは確か、北九州市は北九州市でやらないといけない。県は県でやるけれど、県の予算のほうが大きいと。北方領土を返せって、どこかの市長さんがおっしゃったような気がするんですけどね。確か、北九州市民は福岡県民ではないのかという発言をなされたように、私は記憶するのだが。では逆に、私立幼稚園の子どもは、北九州市民ではないのかという言葉に変わっていくような気がするのだが。これは、分からないかもしれないけれど。</p> <p>だから、市民と県民というので、ぽんと線を引かれてしまうと、どっちがお得ですかというような、何かえらく色が付けられたような気がするけれども。</p>
事務局	施策について、個別の内容は、この場ではお答えできない部分があるが、総合的な内容は予算の中で振り分けをしながら、実施していくということである。
専門委員	予算とか、そういうのはいい。お金がつかないとかいうのは、問題ではない。問題があるということを書いてほしい。だから、書いてない、イコール問題がないというふうに認識するから、都合のいいところだけ書いているように。

# 会 議 録

<p style="text-align: center;">事務局</p>	<p>先ほどの香月委員の話ではないが、一番聞かせたい保護者に対して、聞かせる施策ということに対して、それが一番大事なことだと思うのだが、その部分を書いてないということは、その部分は目をつぶって、できるところだけ頑張っていて、そして、AとかBとか評価をして、自分たちが満足しているのではないかなという気がする。何が一番大事なのか、ということを考えてほしい。この事業をすることによって、子どもたちが健全育成、ものすごくいい子どもに育て、いい人間に育つということが一番大事なことだと思うのだが、何か聞いていたら、施策をやるのが目的であって、それから後のことについては、あまり問題ではないのかなという気がする。</p> <p>ご指摘の趣旨は分かった。確かに今説明したように、総枠で書いているので、ご指摘いただいた内容を、今回は記載していない。ただ、後ほども説明するが、今後、分野別に1つずつの施策についてご協議いただくようにしているので、ぜひ、その際にいろいろとまた詳しい内容を1つずつ出していきたいと思っている。そうした中で、またご議論を頂戴できればと思う。あくまで総括ということでご理解いただければと思う。</p> <p>確かに、1つずつの細かな施策自体に、いろいろ問題点があると思う。それを、私ども批判を避けるということではない。あくまで総括として内容を記載させていただいているということで、ご理解賜りたい。</p>
<p style="text-align: center;">会長</p>	<p>今、部長から説明があったように、総括、大まかなざっくりした内容で、個々の施策に関しては、うまくそれが実態と反映していない。今、専門委員や委員が、今の実態に対して施策が伴っていない、そういうところは次期計画の中に、ではどうやって新たな施策として取り込んでいくかということ、この後の、今後の会議の議題としてあるので、あらためてそのときにご発言いただきたいと思います。</p>
<p style="text-align: center;">会長</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">「元気発進！子どもプラン」の次期計画策定のイメージ他について 資料2、3-1、3-2、3-3に基づき事務局より説明</p> </div> <p>事務局のほうで、計画策定のイメージ並びに基本事項の仮説の説明があったが、基本的には、今後、次期計画を考える枠組みと考えてよろしいのか。</p>
<p style="text-align: center;">事務局</p>	<p>はい。</p>

# 会 議 録

委員	<p>一番最初に会長が、次期のプランは本当に今ある、「元気発進！子どもプラン」のバージョンアップと言われた、それがまさに表れているなと思う。</p> <p>子どもの視点が最初に書いてあり、それから、次代の親が子どもの成長した姿であるということ。5つの視点になったことは、本当にありがたいことだなと思うし、最終的に、やはり地域社会全体で支援する視点というのは、希薄になっている地域社会の子育て環境が、今ここでしっかり見直されるのかなと思ひ、この仮説、基本理念を読ませていただいたときに、とてもうれしいなという思いがした。</p> <p>それから、次期計画の仮説の中でも、子どもが自ら育つ力を持っている。その育ちに寄り添い、付き合うのが、その子どもの成長のステップを大切にすることだということのようなことが書かれてあり、とても喜ばしいことだと思う。</p> <p>ただ1点、質問がある。まず、資料3-1の4つの政策分野、従来の施策の2番目である。「子どもの育ちを支える幼児教育や保育の提供」のところで、就学前教育と保育というのが分けて書いてある。就学前教育の中に、幼稚園と認定こども園というのがあるが、前回のプランの中には、ここに保育所、幼稚園というものが並列で書かれていたのだが、それが抜けている。</p> <p>私が思うに、この場合の保育というのも、新しい制度でみると、小規模保育とか、居宅訪問型保育とか、そういったことを表わすのか。であれば、現存している保育所は、就学前教育の中に、括弧の中に一緒に入れるとか、今まで同様この併記ではいけないのか。というのが、その下の教育・保育施設とくっつてあるところには、同じ並べ方がしてある。ただ、仮説の資料3-2の説明の中でも、やはり就学前教育は幼稚園と認定こども園で、保育というのが分けて書いてある。保育が手厚くなるという意味も含まれているのだと思うのだが、就学前教育の中に入れるというわけにはいかないか。</p>
事務局	<p>ここで認定こども園と幼稚園とを入れたのは、保育という名前が下に出てきている部分があって、では幼稚園や認定こども園はどこ、みたいにイメージで捉えられたらいけないのかと思ひ、入れたものである。実質的には、保幼小連携の関係とか、必ず保育所の部分も当然入ってくるし、保育の中身についても、例えば幼稚園で行われている預かり保育とか、入ってくる部分もあると思う。ここでは、逆に記載としては、足りない部分があったと思っている。いろいろご意見を伺っていきたい。</p>
専門委員	<p>視点のところ、5つになったというのは特に良かったなと思う。親の成長を支える視点と、特に私たちの支援センターは、親への支援というか、学んでいただくということが重要なので、子育てということを学んでいただきながら支援するという視点で、広くそこに包括されたことだとして、ここを言われているのかなということ、まず確認したい。4つの視点のうち、少し分かり</p>

# 会 議 録

事務局	<p>にくいのが、「すべての子どもと家庭への視点」という表現が、読んでいくと分かるのだが、ここをぱっと読んだときに、何を言いたいのか非常に分かりにくい表現で、では、何がいいのかとずっと考えていたが、それがなかなかない。これで仕方ないのかなと思ったのだが、ちょっと分かりにくいなと思う。</p> <p>親の成長を支える視点という部分については、親自身が成長する、子育てをしながら成長する、というもので、施策として、いろいろ実施していく。すべての子どもと家庭の支援ということで、言葉が分かりにくいということについては、どういう言葉が分かりやすいのか、少し検討させていただきたい。</p>
専門委員	<p>先ほどの家庭教育学級とも、それは絡むと思うのだが、親の、ある意味、学びを少し保障というか、させていただくということを含んだ上での、成長を支えるという考えでいいのか。</p>
事務局	<p>そういうことである。</p>
委員	<p>視点4の「すべての子どもと家庭への視点」の説明に「社会的養護を必要とする子ども、ひとり親家庭、障害のある子ども、児童虐待など、特別な支援を要する家庭への支援について充実します」とあり、次期計画での仮説としては、やはり「児童虐待、貧困など特別な支援を要する家庭の支援について充実する」とある。特別な支援というのは、どういうことを考えているのか。</p> <p>3ページだが、現行計画のところでは4項目あり、次年度は左と同じということになっている。国の方向性としては、シンプルケアとかで、本当にできるだけ家庭の環境に近づけるようにして、子どもたちをケアしていくということが、国の方から出されているが、こちらの次期計画の仮説のところは記載されていない。どのように、市は考えているのか。</p>
事務局	<p>まず、「特別な」という部分であるが、これは現行計画でも、特別な支援を要するという表現を使わせていただいているので、それをそのまま使ったものである。「特別な」といった場合に、その事例にあるような、親と生活できない子どもや、児童虐待を受けた子ども、あるいは障害がある子どもとか、それを総称して、そのような表現を使わせていただいている。もう1点、ちょっと聞きづらかったのだが。</p>
委員	<p>3ページですけれども、現行計画で4項目書かれてあると思うが、次年度の計画も同じようなことを、計画、充実していくのか。</p>



## 会 議 録

事務局	<p>次年度については、今のところ現行計画をベースに、より発展させると考えているので、この部分については、今のところ変更するつもりはない。ただ、議論をふまえて考えていきたい。</p>
委員	<p>国の方向性としては、もう大体、施策は出ている。それを市の方で、私たちの方で検討して、また変更ができるということは考えられるのか。国の方ではもう小規模化についての考えが出ている。</p>
事務局	<p>委員が言われたとおり、国のほうでは、児童養護施設の小規模化の動きとかいろいろ検討されている。それで、今回、この資料は、仮説という段階で示されているものだと思っている。今後、部門別の検討会等で、現状分析とか、いろいろな関係者の方の意見も聞きながら、提案なり、懸案としてお示しすることになると思うので、今後の討議ということでもよろしくお願ひしたい。</p>
会長	<p>一応、今後の国の施策なども鑑みて、反映していくということである。</p>
専門委員	<p>先ほどの件といったところなどは、この中には全然入っていないが、いろいろなことについて、またこれは、一応仮説というようなイメージという形なのだが、今後出てくる資料には、問題点とか、そういうふうなこととかが出てくるわけか。</p>
事務局	<p>今後のスケジュールとしては、施策ごとに検討する資料を用意したいと考えている。その中で、課題であったり、現状であったり、今後の方向性、主な取組みについて、こう考えているということを、その資料の中に明示するような形になる。</p>
専門委員	<p>何かその辺、はっきりは分からないが。それから、先ほど委員が言われていた、「保育」ということで書いてあって、当然この部分は、保育所とか、保育園というのは書かれないといけないと思った。「保育」というような言葉の概念、前も1回質問したと思うのが、その辺が、何か適当にということなんだが、書かれている方はこういうつもりで書いたけれど、こうとも取れる。特に保育だけだったら、保育サービスなのか。保育というのは、教育の中にも保育はあるから、どこら辺を指しているかということがちょっと分かりにくかった。あと、この資料の中に「すべての子ども」とあるのが、何回も言うのだが、すべての子どもというのは、当然北九州の中のすべての子どもということではないか。</p>

## 会 議 録

事務局	はい。
専門委員	それを確認したかった。幼稚園に通っている子どもは違う、福岡県の子どもということではないのだよね。
事務局	全体、すべてのお子さんということである。
田中会長	保育に関して、文言以下、もう少し事務局のほうでレクチャー等を受けながら、しかるべき対応をしてもらわないと、いけないというような気がする。
事務局	<p>実は、ここは、国の子ども・子育て会議でいろいろと制度が議論されている最中である。どのような名称にしようかというところで少し悩んだのだが、取りあえず、この形で仮置きをさせていただいている。その辺はまた、制度だとか、委員の皆様の議論をいただきながら、このような施策の分け方のほうがいいのではないかという議論があろうかと思っている。そうしたことも伺いながら、少し整理をしたい。</p> <p>当然、ご不信に思われる点もあろうかと思いつつ、実は出しているというところもある。そのような点で、委員にもご了解いただければと思う。</p>
会長	あくまでもたたき台ということで、これが十分ブラッシュアップしていくということで受けとめてほしい。

# 会 議 録

	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「元気発進！子どもプラン」の次期計画の検討スケジュール（案） について 資料4に基づき事務局より説明</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>北九州市子ども・子育て会議における意見書および質問票の提出に ついて 資料5に基づき事務局より説明</p> </div>
委員	<p>身近に子どもや子育て中の方を見ていて、課題に感じていることを、こういったことが必要ではないかと思って提案するのだが、その提案の内容が、どの施策分野なのか、両方にまたがるとかというようなこともあると思うし、新たな視点だったりする場合があると思うのだが、その際にはどうしたらいいのか。それは一番最初の日程のときまでに出せということなのか。</p>
事務局	<p>特に、いつまでにと限ったものではないので、それに類すると思われるときに出していただいて結構である。それで、内容をこちらのほうで見たうえで、場合によっては、これはこの施策で検討するという判断をさせていただく。それについては、意見書を提出された方にも事前に連絡をしたいと思っている。会議の中では、提出した意見について、その概要等を説明していただくことにもなると思うので、意見を提出された方ときちんと情報交換をしながら議論をしていきたいと考えている。分からないときは、個別に相談をする。</p>
会長	<p>どの施策に該当するかは、事務局の方できちんと整理してもらおうということで、取りあえず、いろいろと質問とか意見などを出してもらうために、こういった紙面を作成した。</p>
専門委員	<p>今後、意見とか質問を検討する上で、例えば自分が所属している団体とか、身近な関係機関とかで、他にも広く意見を身近な所で募って、それを集約して出そうとした場合、今、配布されている資料などは、外部に出してはいけないものなのか。こういう検討をしているということは、守秘義務があるのか。そういう制約というのは何かあるのか。</p>
事務局	<p>会議に提供している資料については、ホームページでも公開しているので、基本的に特に隠すようなものはない。ただ、第2回の会議だけは評価をするに当たって、一時期、評価が決まるまでは非公開という説明はした。そのほかの内容については他の方に渡しても結構である。</p>
専門委員	<p>分かった。</p>

# 会 議 録

委員	<p>ひとり親家庭の施策 13 は、今後、26 年1月に、プランを考える予定と挙がっている。施策の評価のところ、知っているか、知らないかとか、何人利用したかとか、そういうことだけが、評価基準になっている。実際、内容的にすべての子どもたちの健やかな成長とか、子育てで、一番悩んでいるのは、ひとり親家庭である。子どもが非行に走ったり、虐待をされたりということで、健やかな成長が見込まれない子どもたちのことでひとり親家庭が悩んでおり、もう少し支援の施策について、就労支援とかだけではなくて充実してほしい。私どものPRが不足していて、利用度が少ないのももちろんだが、その情報を得るまでにたどり着いてないというお母さん方もたくさんいる。その辺のところは、私どもの段階でも努力していかなければいけないとは思っているが、本当にこどもが健やかに成長し、子育てに困っているお母さんともども、支援のところを、今後、充実していただければと思っている。</p>
会長	<p>今の発言ように、施策ごとに、いろいろなご意見とか要望、あるいは中間総括で出されている数値とは違う、もっと具体的な数値などが知りたいなど、もし事務局が数値を持っていれば、擦り合わせしながら、実際の課題などを明確にし、分析して、今後の対応策を練るということが必要になってくるのではないかと思う。</p> <p>それから、今日、事務局から説明があったように、仮説、イメージというのは、あくまでもプラン検討の段階で修正すべきものである。「すべての子ども」というと、対象が不明瞭だったり、もちろん、特別な支援を要する子どもというのは、前の次世代から使っている言葉なのだが、もしかすると良い適切な表現とか文言に置き換える必要があるのかもしれない。そういった意味では、視点とか文言、表現等も、今後、十分議論を進めていただくことで修正して、最終的なものが完成するということになると思う。</p> <p>来月から、施策ごとの検討を行うが、あらためて最後にその辺のイメージとか、仮説なども議論する機会が用意されるということであり、取りあえずは、事務局から提案のあった仮説を用いて、いろいろと検討していただきたいと思う。</p> <p>【閉会】16：00</p>